

夏季特別展

令和3年(2021年)7月10日(土)～8月22日(日)

新芦屋古墳－被葬者の謎にせまる－

を開催します！



新芦屋古墳出土 ぎょうよう
杏葉

春の特別展示「新芦屋古墳－被葬者の謎にせまる－」は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言のため、開幕直前でやむなく中止となりましたが、あらためて令和3年(2021年)7月10日(土)から8月22日(日)まで夏季特別展として開催することになりました。そのため「博物館だより」本書では、前号とやや視点を異にして新芦屋古墳の特集を組んでみました。ひとつは常設の復元模型の展示に至った経緯であり、もうひとつは近畿圏における横穴式木室墳の紹介です。くわえて5年前に設置された新芦屋古墳の現地説明板についても言及がなされています。今度こそ満を持して準備していた展示の実現をはかろうとしています。

その一方、昨年から取り組んでいる新型コロナウイルスに関する展示を、新資料を加え、市役所を含む館外のいくつかの会場で夏から秋にかけて展開しようとしています。あわせてご覧いただければさいわいです。

(当館特別館長 中牧弘允)

新芦屋古墳の博物館展示

1 破壊古墳の展示の難しさ

吹田市立博物館の建設構想は、昭和60年度(1985年度)から開始されたが、その展示構想を進めるにあたって課題もあった。古墳時代の吹田地域は、須恵器生産地帯として機能したため、陶棺など墓制の特色はみえるが、古墳自体は少なく、また、丘陵域の住宅開発が早く進んだため、失われた古墳も多い。ましてや、発掘調査が行われた古墳は、紫金山史跡公園内に埋没保存されている吉志部1号墳のみで、博物館展示に活用できる後期古墳はほとんどなかった。

このようななか、新芦屋古墳は7世紀に入る古墳であるが、木室墳で石棺を主体部とするという全国でも例のない古墳であって、多数の副葬須恵器をもち、のち大阪府有形文化財に指定される鉄地金銅張馬具は遺存状態も良好で、府下でも屈指の好資料であった。したがって、新芦屋古墳を市立博物館の古墳展示の中核とすることは、展示構想の当初から想定されてきた。

しかし最大の課題は、正式に発掘調査された古墳でありながら、半ば破壊されてからの調査で、古墳の外形等の初見はほとんどなく、主体部の約50%は失われており、埋葬部の石棺は99%は原位置から動いており、回収された石棺も全体の30%程度という状態であった。

さて、博物館の展示資料は、「科学資料」でないといけないという大原則がある。つまり、古墳であれば、「考古学という科学」によって調査され、解明された資料を使わないと、信頼のおける展示とはいえない。ただ、破損してから発掘された新芦屋古墳の場合は、推定や復元調査が必要で、勿論、推定復元成果を表現しても良いが、その場合は、推定の根拠を示さないとはいけない。よって、新芦屋古墳の復元展示は、相当慎重に調査を進めないと展示には活用できない。

2 どのように見せるか

更に、どのように見せるか、という見せ方の課題がある。石棺が埋納された横穴式石室であれば、観覧者は写真だけでもイメージでき、おおよそ理解は及ぶ。しかし、新芦屋古墳の複雑な埋葬施設は、写真だけでは理解できず、勿論、図面による展示表現の方法があるが、多くの子どもたちが観覧することを考えると、図面による理解には限界があり、大きさや質感を体験的に知り得て、速やかに理解するためには、やはり実物大の模型資料による復元展示が最も有効である。

ところで、本博物館の展示模型の特色は、第1展示室の五反島遺跡移築古代堤防や蔵人中世遺跡の井戸跡、第2展示室の移築12号須恵器窯跡、復原32号窯跡、復原七尾3号瓦窯跡、復原吉志部H I号瓦窯跡などがあって、土木資料・生産施設に対して、ふんだんに現寸展示主義を取っている。

土木資料や生産施設はもともと大規模であるために、室内展示となると、どうしても「縮小模型」とならざるをえない。しかし、例えば、10分の一で縮小された全長50cmの瓦窯模型では、その窯で何枚の瓦が焼けるのかを想像することは不可能である。美術資料のような美しさや細かい技巧を見るのではなく、生産施設や土木遺構では、その規模を感じる事が重要である。そのような本博物館の展示基本構想から、この新芦屋古墳についても主体部は現寸大で模型表現とすることとなった。生産施設や土木資料を原寸大で再現することの重要さは、大阪府立狭山池博物館の展示が見事にそれを示している。

しかし、如何に復元された優秀な資料であっても、「ないもの」は示しようがない。つまり、新芦屋古墳の展示には、調査され資料化された部分をみせることが重要である。そうすると、観覧者は古墳の南側～東側から主体部を観察することとなる。西～北側は殆ど失われていたた

め、どのように表現しても、それは推定復元でしかないのです。その部分は観覧者の主要な視界から見えない部分でもいい。ただ、復元展示の背景（壁面）には、説明パネルと調査写真を掲示し、その復元根拠を表示することとなった。

3 露出展示かケース展示か

博物館の展示室では展示ケース内での展示が一般的である。ケース内の展示は、空調管理が容易で、チリ・ホコリを防ぎ、来館者が触れることがないので資料の損壊を防止することができる。しかし、観覧者の視線をガラス板が遮り、

一定の距離以上に観覧者は近づくことが出来ない。つまり、ケース展示は資料にとって「安全な展示」であるが、しかし観覧者にとって、ガラス板が資料と目線を遮る「不親切な展示」である。この両者の利点と欠点を考慮しつつ、展示の基本的な方法が決まる。

展示のステージである墓室の構造的復元は全長7mにも達し、規模からみてもケース展示は不向きで、発掘調査図面を根拠に倒れ込んだ木柱を復元し、一定の高さまで壁体の原木柱列を再現して、木室墳の特性を実感できるようにした。木室の高さは玄門を形成する一対の柱材に

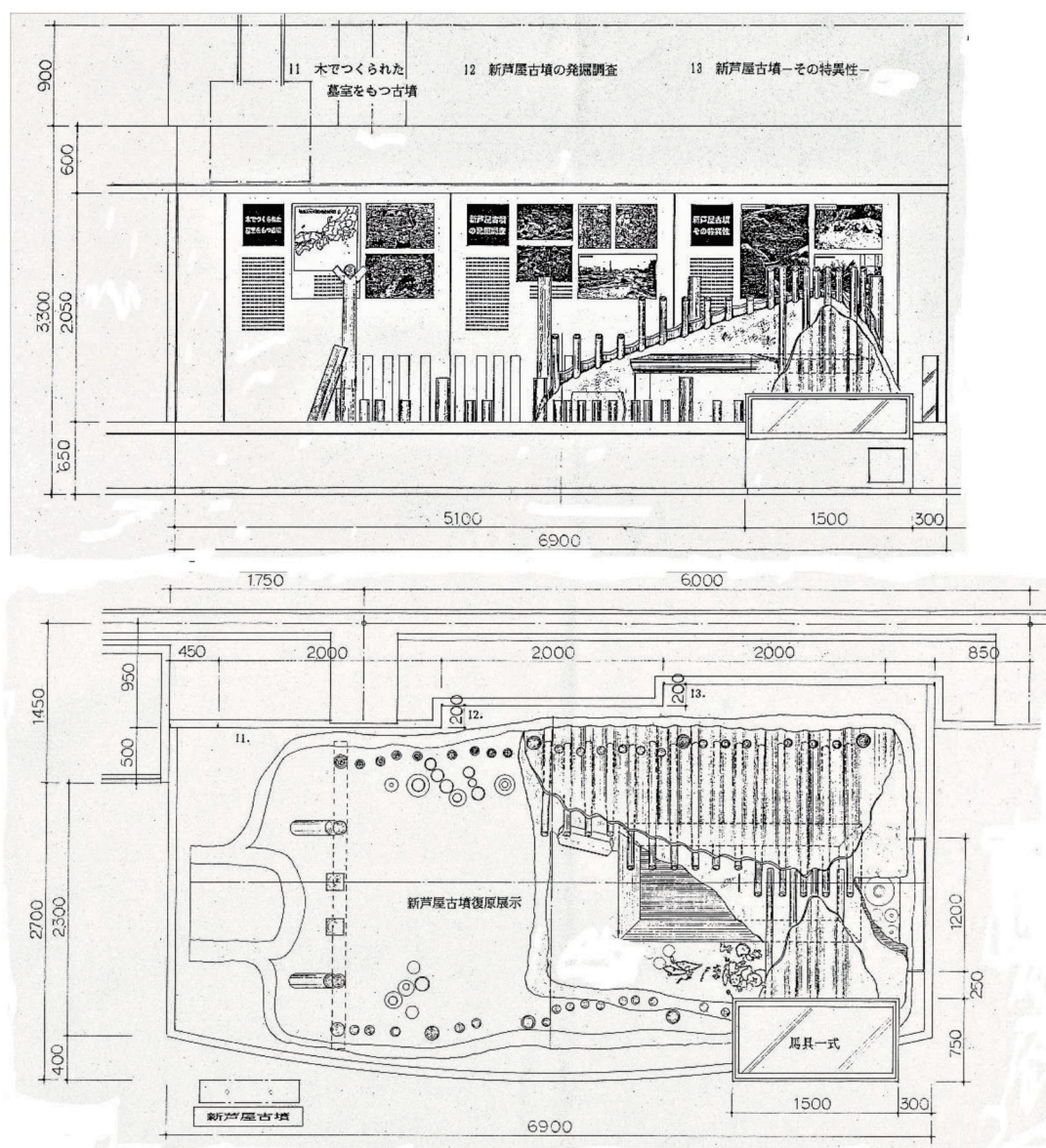


図1 吹田市立博物館新芦屋古墳展示設計図（作図：株日展）

横材を載せ、玄門らしくはみせたが、根拠のある斜めの支保材以外は復元せず、天井も一切の復元は行っていない。この展示では、木室の屋根を陸屋根と推定しているものの、陸屋根か小屋組みかは、確たる根拠はなく、従って無理をして複雑な復元をする必要はないとした。

ただ、本古墳の大きな特色である石棺と、その被覆部分は調査図面をもとに、完全に復元し、そこに副葬された馬具一式は、検出状態で再現することとした。また、墓室の前室は葬送のマツリの重要な部分で、全資料が調査・採取されているので、原位置のまま再現展示をした。韓国の考古博物館での古墳復元展示に見られるように、露出展示の場合は、本来は精密に製作された復元資料で再現展示するべきであるが、ここではオリジナル(実物)も展示している。ただ、復元墓室の前に馬具や棺内資料を展示するガラスケースを置いている。棺内～棺側の主要資料はほとんどが貴重な金属資料なので、エアタイト(完全密閉)ケースとし、調湿剤による湿度維持を可能としている。この部分のみ美術品展示の仕様である。

4 新芦屋古墳の博物館展示の意義

新芦屋古墳は調査後に消滅した古墳であり、現地に出向いても何も残されていない。しかし、博物館には、立派な主体部復元展示がある。したがって現在では、この展示は新芦屋古墳の学習に際して、市民に学習機会を与える唯一のものである。新芦屋周辺に居住された市民も市立博物館の展示を見て、自分たちの住区に、この

ような立派な古墳がかつてあり、立派な副葬品をもつ有力な地域支配者が葬られたことを初めて知った方も、少なくないと思われる。また、このような希少な木室古墳の実大復元展示も、博物館展示として殆ど例がなく、考古学研究者にとっても有益な研究資料となる

市立博物館の第2展示室に目を移すと、そこには5基の須恵器窯・瓦窯が復元されていて、そのうち、12号須恵器窯跡は6世紀の市域の須恵器生産最盛期の窯で、大規模移築工事を経て、博物館展示として再設置されたものである。また、朝鮮半島から伝来直後の重要窯(32号須恵器窯)があり、後期難波宮の瓦を焼成した七尾瓦窯3号窯、平安宮の瓦を焼いた吉志部H1号瓦窯がある。縮小模型であるが、中世後期～現代までの我が国伝統的な瓦窯である現代の達磨窯など、希少な重要遺構が再現されている。十分に調査され研究された考古資料は、復元資料であっても説得力があり、色褪せることがない。

バーチャル映像に走りがちな現在の博物館展示の世界にあって、動きもしないこのような実物模型は、博物館展示には既に時代遅れのようにも思えるが、しかし、その前に立った時、「これは何だ、すごいなあ、よくこんな古墳(あるいは窯)をつくったなあ…」と、受ける感動は映像資料とはまるで違う。資料から受ける強い感動は、歴史学習の第一歩である。



写真1 吹田市立博物館 第1展示室 新芦屋主体部復元展示

5 失われた古墳への地域のおもい

平成28年(2016年)10月30日、新芦屋古墳の南西にある新芦屋中央公園の南側入口付近で、人だかりが出来ていた。新芦屋古墳の説明板が完成し、そのお披露目には地域の人々が駆け付け、中学校ブラスバンド部がファンファーレを吹き、盛大な落成式典が行われていたのである。式典後は、近くの集会所で新芦屋古墳についての歴史講演会が開催され、市立博物館の中牧弘允館長(現・特別館長)と調査担当者であった藤原学が講演をおこない、会場はぎっしり地域住民で埋まった。

これは毎年、市の実施する文化財説明板の設置事業のひとつにすぎないが、「失われた新芦屋古墳の解説板を設置してほしい。」とする東山田地区連合自治会関係者の熱心な働き掛けで実現した事業であることに、大きな意義がある。そして、調査から40余年を経た現在、この解説板の前に立つと、周辺は近代的なマンションと新

しい住宅・街路しかなく、その変貌に驚かされる。それでも視線を北東に移すと、高台に住宅が連なり、古墳のあった地形らしい景観が、今でも想起される。

そしてここ来ると、必ず思い出すことがある。古墳の調査現場で、高さ4mばかりの写真撮影用の足場を組み、連日、カメラを抱えて調査写真を撮っていたことである。その足場に立って北を望むと、意外に近くに鎌足の墓とされる阿武山古墳が目飛び込んでくる。新芦屋古墳の位置と古代史の景観がよく解る光景である。地域の景観は大きく変わったが、しかし、地域を訪れて、そこから歴史を教わることはまだまだ多い。

(元吹田市立博物館 学芸員 藤原学)



写真2 新芦屋古墳説明板 除幕式風景 (2016年10月30日)

畿内とその周辺の横穴式木室墳

はじめに

吹田市新芦屋上に所在した新芦屋古墳は、7世紀前半に築造された、一辺20mの方墳(推定)である。この古墳は、埋葬施設が横穴式木室でその中に、石棺を埋置し、燃やさない、という点において、全国的に類例のない極めて重要な古墳である。

横穴式木室とは、埋葬施設の構造が横穴式石室と同じく、羨道、袖、玄室で構成されるが、石を使わずに木材を組み合わせ、そこへ粘土で覆うという構造をもつ。この埋葬施設は、通常墓室内の棺に火をかけ、遺骸を副葬品ごと燃やすという、特殊な埋葬形態として注目されるが、火をかけない例もある。

このような古墳は、石川県、静岡県、三重県、大阪府に集中してみられ、現在、横穴式木室墳として集成された報告は117例とされる(1)。

このうち大阪府内および兵庫県内(和泉、北河内、摂津、播磨)でみられる横穴式木室墳は、約30例報告されている。ここでは、その分布地域について紹介しておきたい(2)。

1. 各地域の横穴式木室墳(表1)

＜和泉地域＞ 和泉地域では、牛石古墳群、野々井古墳群、陶器千塚古墳群(3)、檜尾塚原古墳群、道田池古墳群、菩提池西古墳群、聖神社古墳群、明神原古墳において確認されている。

＜北河内地域＞ 北河内地域では、宇山古墳群において確認されている。宇山古墳群は宇山1号墳と宇山2号墳からなる古墳群である。

＜摂津地域＞ 摂津地域では、新芦屋古墳、上寺山古墳、上穂積神社西古墳、西山古墳群、平方古墳群において確認されている。

＜播磨地域＞ 播磨地域では、中番古墳群、名草古墳群で確認されている。

2. 畿内地域の横穴式木室墳の特徴と傾向

今回、畿内地域の横穴式木室墳の特徴と傾向について2点ふれておく。一つは、横穴式木室墳は前項に記した地域に限られるということである。

横穴式木室墳は、6世紀後半～7世紀代の限定的期間にみられる埋葬施設だが、実は奈良県内では見つかっていない。つまり、いわゆる王権中枢においては、横穴式木室墳は採用されていないのである。

二つ目に、横穴式木室墳の採用地域を比較する

と、基本的には、古墳群中の数基が横穴式木室を採用する。しかし一方で、摂津地域の新芦屋古墳のように、単独墳で築造する例もある。基本的には畿内地域では、群集墳内での採用ととらえられる。

おわりに

新芦屋古墳の事例は、はじめに述べたとおり全国的に類例がなく、地域の特徴である群集墳も形成せず、単独墳という点でも、他の横穴式木室墳とは異なる。

こうしたことが、被葬者像を検討するうえでの手がかりとなるが、現状で明らかにすることは難しい。類例の報告を待ちたい。

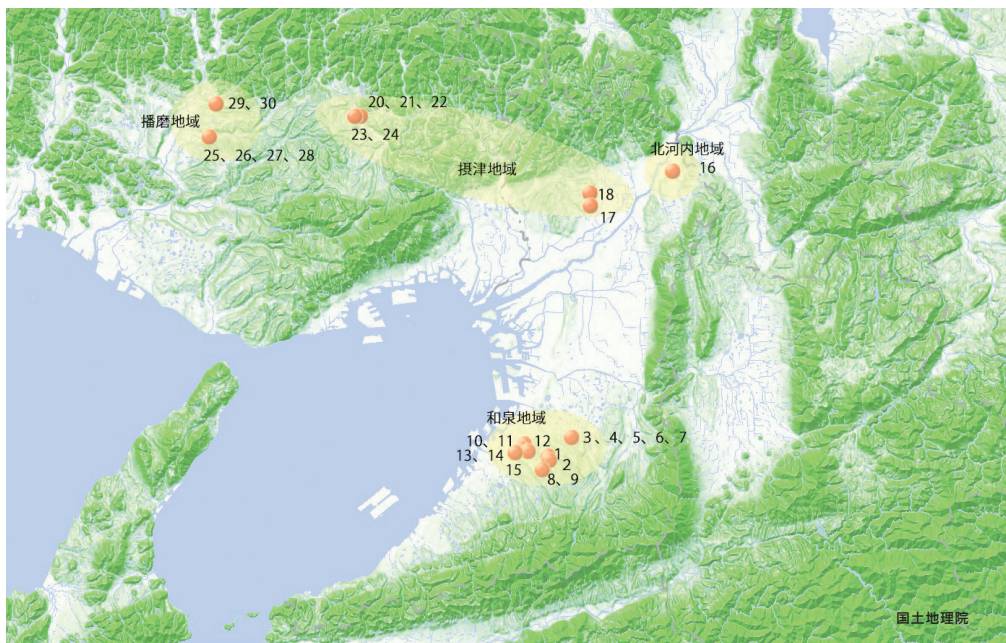
註

- (1) 先行研究(小森20013、玉井2015)の集成に基づき、筆者なりに項目を追加した。玉井氏は、全国において「横穴式木室」と報告されているものを網羅し、117例集成している。そのなかで、横穴式木室墳とは異なるものも含まれていることを指摘している(玉井2015)。また、小森氏の集成では、石川県を2例とし、横穴式木室と報告されているものの、その構造が定義にあてはまらないものは含めず84例を集成されている(小森2013)。これらをふまえると、現在横穴式木室墳と呼べる埋葬施設は117例には達することはないと考えられる。
- (2) 吹田市立博物館春季特別展「新芦屋古墳―被葬者の謎にせまる―」において、大阪府、兵庫県を中心に展示を構成した。そのため、その構成に準ずる形で、今回は、北河内、和泉、摂津、播磨の地域に限定し集成を提示するものである。その他の地域については、各古墳の報告書を参考とされたい。
- (3) 陶器千塚古墳群の番号は調査が複数に渡り、各調査機関によって異なるものもある。陶器千塚7号墳は大阪府の仮称番号では3号となっている。本稿では堺市の番号をもとにしている。

<引用・参考文献>

- 熊谷晋祐2015『「横穴式木室」の再検討―壁体に石材を用いない横穴系埋葬施設の基礎研究―』『Archaeo-Clio』第12号 東京学芸大学 アーキオ・クレイオ刊行会
小森哲也2013「横穴式木室考―先行研究の整理と分布・構造からみた地域間交流―」『考古学雑誌』第97巻 第4号 日本考古学会
柴田稔1983「横穴式木芯粘土室の基礎的研究」『考古学雑誌』68-4
白神典之1988「泉北地域の後期群集墳」『網干善教先生華甲記念考古学論集』網干善教先生華甲記念会
玉井功2015『上寺山古墳の研究』上寺山古墳研究会

(当館学芸員 竹原千佳誉)



畿内の横穴式木室墳の分布域

表 1 横穴式木室墳一覧（畿内地域）

番号	府県名	旧国名	古墳名	所在地	墳 丘		木室の構造	粘土	火化※	副 葬 品						時期 (世紀)	玄室規模
					墳形	規模				須恵器	土師器	馬具	鉄製品	玉類	他		
1	大阪府	和泉	牛石5号墳	堺市													
2			野々井30号墳	堺市	円	13	A								金環	6後	5.8×3.3
3			陶器千塚1号墳	堺市	円	6										6末	
4			陶器千塚7号墳	堺市	円	16										6末	
5			陶器千塚21号墳	堺市	円	15	A								銀環	7初	6.8×2.2
6			陶器千塚29号墳	堺市	円	10									銀環	6後～7初	
7			陶器千塚93号墳	堺市	方										埴	7初	
8			檜尾塚原8号墳	堺市	円	13	A									6後	2.3×1.9
9			檜尾塚原9号墳(第3主体部)	堺市	前方後円	13	A								金環	6後	5.95×3.5
10			道田池2号墳	和泉市	円	14	A								銅環	6末	3×4
11			道田池4号墳	和泉市	円	15	A								圭頭柄頭	6末	4.7×2.4
12			菩提池西古墳	和泉市			A									6末	4.6×2.5
13			聖神社2号墳(東)	和泉市	円	30	A									6後	3.6×2.8
14			聖神社2号墳(西)	和泉市	円		A										3.15×2.3
15			明神原古墳	和泉市	円	18										6中～6後	3×1.8
16	兵庫県	北河内	宇山1号墳	枚方市	円	12	A	—	—						銀象嵌大刀	7初	4.5×2.8
17		摂津	新芦屋古墳	吹田市	方	20	A/C		—						金銀環	7初	4.8以上×2.6
18			上寺山古墳	茨木市			B								銅環	6末	4×3
19			上穂積神社西古墳	茨木市													
20		摂津	西山2号墳	三田市	円	7	A								耳環	6末	3以上×1.7
21			西山13号墳	三田市	円	8	A								耳環	7前	3.2×1.9
22			西山18号墳	三田市	円	11	A								耳環	6末	5.4×2.1
23			平方1号墳	三田市	—											6末か	4.1×2
24			平方2号墳	三田市	—											6末か	2.2以上×2.2
25		播磨	中番2号古墳	小野市	円	9	A									6末～7前	2.5×2.5
26			中番3号古墳	小野市	円	10									金環	7前	2.8×1.15
27			中番10号古墳	小野市	楕円	7										6末	
28			中番18号古墳	小野市	円	9.5	A								金環	6末～7前	5.5×1.55
29			名草3号墳	社町	楕円	13	A								金環	6末	5.9×2.4
30			名草4号墳	社町	円	9.7	A								金環	6後	5.2×2.7

○構造 A：合掌、B：断面台形、C：断面四角形 ○単位はすべてm

※火化とは、木棺を燃やすこと

令和3年度(2021年度)夏季特別展 「新芦屋古墳―被葬者の謎にせまる―」 関連イベント

講演会

7月31日(土) 午後2時～3時30分

「新芦屋古墳の発掘調査について」

藤原 学 氏(元吹田市立博物館 学芸員)

定員／40名(多数の場合は抽選)

要申込／締め切り7月13日(火) 必着

会場／吹田市立博物館 2 F 講座室

申込方法

吹田市役所ホームページの電子申し込みシステムか、はがき、またはFAXに講座名、参加者全員の氏名、郵便番号、住所、電話番号を記入のうえ締め切り日までに博物館まで。

オンライン講演会

吹田市立博物館ホームページの「バーチャル・ミュージアム」にて、会期中に順次公開します。

- 「新芦屋古墳と古代嶋下郡のミヤケ」
菱田哲郎氏(京都府立大学文学部 教授)
- 「横穴式木室と火葬―上寺山古墳を中心に―」
清水邦彦氏(茨木市立文化財資料館 学芸員)

オンライン歴史講座

吹田市立博物館ホームページの「バーチャル・ミュージアム」にて、会期中に公開します。

- 「新芦屋古墳を読み解く」竹原千佳誉(当館学芸員)

令和3年度
ミニ巡回展

吹田×茨木
合同開催

は や り や ま い

流行病と新型コロナ ～100年後の人たちへ～

■茨木会場

- ①茨木市立沢良宜いのち・愛・ゆめセンター
本館 1 階ロビー
6月26日(土)～7月10日(土)
※休館日：日曜日
開館時間：午前9時～午後9時30分
- ②茨木市立総持寺いのち・愛・ゆめセンター
本館 2 階共用室
7月17日(土)～7月31日(土)
※休館日：日曜日・7月22日(木)・23日(金)
開館時間：午前9時～午後9時30分
(最終日は正午まで)
- ③茨木市役所 南館 1 階東玄関ロビー
8月2日(月)～8月13日(金)
※閉庁日：土曜日、日曜日、祝日
開場時間：午前8時45分～午後5時15分
- ④茨木市立豊川いのち・愛・ゆめセンター
本館 1 階ロビーほか
8月21日(土)～9月4日(土)
※休館日：日曜日
開館時間：午前9時～午後9時30分

■入場料 無料

■吹田会場

- ⑤吹田市役所
中層棟 1 階正面玄関ロビー(101 市民課前)・
高層棟 1 階展示ケース(133 市民課マイナ
バー窓口前)
(会場は高層棟 1 階展示ケースのみになる場合があります)
9月13日(月)～9月24日(金)
※閉庁日：土・日・9月20日(月)・23日(木)
開場時間：午前9時～午後5時30分
- ⑥吹田市立中央図書館 中 2 階休憩スペース
10月2日(土)～10月17日(日)
※休館日：なし
開館時間：午前10時～午後6時
木・金は午前10時～午後8時
- ⑦吹田市立千里山・佐井寺図書館 2 階復元教室
10月23日(土)～11月7日(日)
※休館日：10月28日(木)
開館時間：午前10時～午後6時
- ⑧吹田市立子育て青少年拠点 夢つながり未来館
1 階エントランスホール
11月15日(月)～11月19日(金)
※休務日：なし
開場時間：午前10時～午後5時30分
(初日は午後1時から・最終日は午後3時まで)

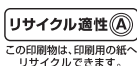
※吹田市立博物館は会場ではありません。※会場によっては一部複製資料を展示する場合があります。

主催 / 吹田市立博物館 茨木市市民文化人権・男女共生課 共催 / 吹田市立図書館 茨木市人権センター

吹田市立博物館だより 第86号 令和3年(2021年)7月2日発行

編集・発行 / 吹田市立博物館

〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL 06(6338)5500 FAX 06(6338)9886 ホームページ <http://www2.suita.ed.jp/hak/>



この冊子は2,500部作成し、1部あたりの単価は25円です。
森林認証紙と植物油インキを使用しています。